

考察・まとめ③

- 週1回服用する製剤への切り替えでは、比較的若い年齢層においては飲み忘れが多かった。また、服用方法についての説明を何回も受けている患者のほうがコンプライアンスが良い傾向にあった。服用年数に関しては、服用に慣れてくる半年以降の患者に飲み忘れが多い傾向にあった。(結果⑥・⑦より)
- 週1回服用する製剤・毎日服用する製剤の選択に関しては、個々の患者に関して生活のスタイル・性格・服用規則が苦になるかなどの項目を吟味した上で決定する必要があると考えられる。その上で、服薬指導などを通して患者の治療へのモチベーション維持や不安に感じている・疑問に思っている点などを解決していくことでコンプライアンスの向上・治療の継続を達成できると考える。

13

第16回日本医療薬学会発表資料

アンケートについて

ビスフォスフォネート製剤の処方のある12店舗において、ビスフォスフォネート製剤(毎日服用する製剤)を服用している患者にアンケートを行った。また、性別、年齢、年齢と併用薬および他疾患については薬剤師により解答を得た。その結果、232例の回答を得た。

[期間] 平成18年4月1日
～平成18年5月31日
までの2ヶ月間

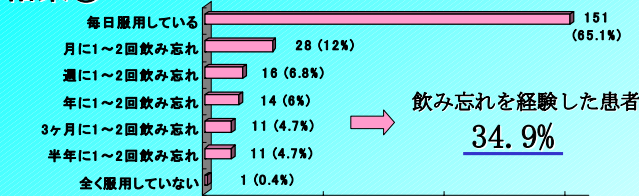
[アンケート項目]

- ①服用年数
- ②コンプライアンス
- ③服用しなかった理由
- ④薬剤師に説明してほしい内容
- ⑤治療意欲
- ⑥薬剤師からの説明に関して

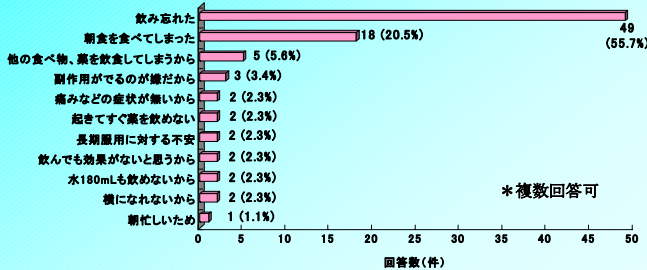
骨粗鬆症のお薬(フォサマック、ボナロン、アクトネル、ベネット)についてお聞きします。以下の項目にチェックまたはご記入お願いいたします。

- Q.どのくらいの頻度、このお薬を飲んでいますか?
 10年～15年 5年～10年 1年～5年 2年～3年 3年～5年
- Q.このお薬をどのくらいの頻度で飲まなかったことがありますか?
 1回 2回 3回 4回 5回以上
- Q.このお薬を飲まなかったのはどんな理由からですか? (複数回答可)
 飲み忘れた 飲み忘れが習慣化している 副作用がでてしまった 副作用がでるのだから 朝食を食べた後 飲み忘れが習慣化している 飲み忘れが習慣化している 飲み忘れが習慣化している 飲み忘れが習慣化している 飲み忘れが習慣化している
- Q.このお薬の飲み方(以下)について、薬剤師からの説明はありましたか?
 [説明のあったものにチェックしてください。]
 起床時に服用する 水180mlと併用する 起床後少なくとも30分は飲食(水を除く) 飲水を摂取しない
- Q.薬剤師からの飲み方の説明は何回ありましたか?
 1回 2回 3回 4回 5回以上
- Q.薬剤師からもっとどのような説明があればよいですか? (複数回答可)
 骨粗鬆症について 骨の強さについて 骨量の測定について 副作用について 日常生活での注意することについて コラボリメントなどについて その他
- Q.骨粗鬆症について、本やインターネットなどで調べたことはありますか?
 はい いいえ はい いいえ はい いいえ はい いいえ

結果① 飲み忘れを経験した患者数



[飲み忘れの原因]



②

結果② 飲み忘れを経験した患者数

[性別] 男性 7例 / 24例 29.2%
女性 74例 / 208例 35.6%

[年齢別]

～50歳 2例 / 14例 14.3%
51歳～60歳 11例 / 29例 37.9%
61歳～70歳 28例 / 57例 59.1%
71歳～80歳 30例 / 84例 35.7%
81歳～90歳 10例 / 48例 20.8%

[服用年数]

～半年 14例 / 56例 25.0%
半年～1年 19例 / 46例 41.3%
1年～2年 24例 / 59例 40.6%
2年～3年 16例 / 39例 41.0%
3年～5年 9例 / 32例 28.1%

[服用方法の説明の有無]

無 0例 / 7例 0%
1項目 2例 / 13例 15.4%
2項目 4例 / 13例 30.8%
3項目 15例 / 33例 45.5%
4項目 60例 / 166例 36.1%

[服用方法の説明の頻度]

無 1例 / 19例 5.2%
初回のみ 14例 / 69例 20.3%
2～3回に1回 27例 / 62例 43.5%
5回に1回 19例 / 33例 57.8%
毎回 21例 / 49例 42.9%

③

結果③ 飲み忘れを経験した患者数

[併用薬の有無 (骨粗鬆症の薬あり)]

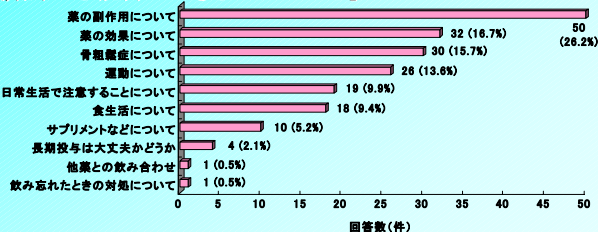
無 61例 / 150例 40.7%
有 20例 / 82例 24.3%

[併用薬の有無 (骨粗鬆症の薬以外)]

無 32例 / 66例 48.8%
1～2種類 15例 / 52例 28.8%
3～5種類 19例 / 56例 33.9%
6～9種類 11例 / 46例 23.9%
10種類以上 4例 / 12例 33.3%

併用薬に関しては、骨粗鬆症の治療をビスフォスフォネート製剤のみで治療している患者の方がコンプライアンスがよくなかった。(p<0.05: χ^2 検定) また、併用薬の数によるコンプライアンスの差はみられなかった。(二元配置分散分析)

[薬剤師から説明してもらいたいこと]



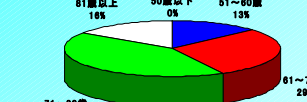
④

結果④ 月に1回以上飲み忘れのあった患者(45例)についてみると・・・

[服用年数]



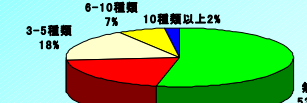
[年齢別]



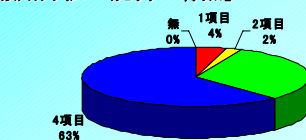
[併用薬の有無 (骨粗鬆症の薬)]



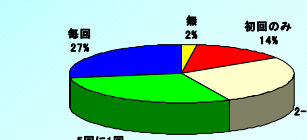
[併用薬の有無 (他疾患の薬)]



[服用方法の説明の有無]



[服用方法の説明の頻度]



⑤